大阪市立大学土木会通信5

土木会通信 第五号
発 行 日：2011年6月20日
発　　行：大阪市立大学土木会事務局
発 行 人：倉田克彦
編集担当：大島昭彦　芝野弘之

大阪市立大学土木会会員の皆様方におかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。平素は、土木会活動にご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年の6月の土木会総会において、副会長に選任されましたので、一言就任のご挨拶を申し上げます。

私は、これまで評議員として、土木会の活動に参加してまいりましたが、この度、副会長として、土木会の運営に携わらせていただくことになりました。大学機構の再編に伴う「同窓会組織のあり方の決定」は、早急に結論を出さなくてはなりません。又、「若手会員の積極的な参加に基づく土木会の活性化」に対しては、具体的な施策を実行していかなければなりません。難題が待ち受けております。微力ながら全力で取組んでまいりますので、役員・評議員の方々をはじめ、会員の皆様方のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

3月11日の昼過ぎに、M（マグニチュード）9.0の東北地方太平洋沖地震が発生しました。震度7強の激震と、高さ10mを超える巨大津波とが、東北・関東地方の太平洋側地域に未曽有の甚大な被害をもたらしました。

犠牲になられた方々の冥福を心よりお祈りするとともに、被災された皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。

「土木（ものづくり）」の魅力

大島　豊平（土木会副会長　昭和53年卒）
鹿島建設（株）

さて、地震による土木構造物被害は、16年前の阪神・淡路大震災に比べて、かなり小さいようです。直下型地震とプレート型地震という発生メカニズムの違いがあるものの、阪神・淡路大震災以降の「構造物の耐震化への取組み」によるところが大きいように思われます。しかし、高さ10mの防潮堤を軽々と乗り越え、広範囲に壊滅的被害をもたらした巨大津波の圧倒的なパワーは、非常に衝撃的で震撼させられました。土木技術者として、阪神・淡路大震災での、崩壊・倒壊した阪神高速道路のピルツ橋脚群を見て以来のインパクトでした。改めて、自然の脅威を思い知らされました。

今回の地震データに基づき、個々の構造物の耐震性を再評価し、構造物の耐震化を更に進めることも重要ですが、恒久復興（防災都市建設）に向けて、土地利用・都市計画及びライフラインのマネジメント等を含めた、根本的、総合的見地からの提言を行うこと（本来のシビルエンジニアリングの領域）が、土木技術者に課せられた使命ではないかと思います。そして、将来、襲来するであろう、東海・東南海・南海地震への備えに繋げていかなければなりません。

私は、この十数年間、リクルータとして、学生と面談をしてきましたが、最近の建設会社（ゼネコン）の人気の無さは、他の大学でも同様ですが、かなりひどい状況です。顕著になったのは、大学から「土木」の名称が消えた頃からでしょうか。学生の「土木」に対するイメージの変化以上に、「建設業」に対するイメージが大きく変化してきています。

建設業界は、高度成長期から低成長期に入っても、右肩上がりの時代が、バブルまで続きましたが、その後、建設投資の減少傾向が続いています。建設業の現状はと言うと、建設投資額は、ピーク時（バブル期）の50％以下となっています。社会資本整備のための公共事業予算も同様です。しかし、建設業者数は、ピーク時の85％、就業者数も、75％程度にしか減少していません。又、労働生産性を見ても、バブル期と比較して、全産業では40％向上していますが、建設業では70％以下に低下しています。数字だけで見ると、建設業界は、魅力ある職場には見えません。

一方、業界の内部にいる我々は、「土木技術者としての誇り」を持って、「やりがい」を感じて働いています。

社会資本整備に不可欠な土木構造物を造っています。「魅力ある職場」です。この思いを、学生諸氏に伝える良い方法は無いのでしょうか。

若手会員の皆さん、土木会総会にお越しいただいて、貴重なご意見をお聞かせ願えないでしょうか。

最後になりますが、土木会会員の皆様方のご健康とご活躍を祈念いたします。

学科の近況

主任報告

重松孝昌
（昭和61年卒）

２０１１年３月11日14時46分に、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。卒業生の皆様やご家族、また、ご関係者の皆様がご無事であることを信じ、お祈り申し上げます。被災地域が極めて広域であること、被災の影響は被災地に留まらず、日本あるいは海外にも及んでいることから、都市生活や経済活動がどのようにして成り立っているかということがよく分かりました。今夏は、全国的に節電が必要であるとのこと。このような意味では、被害地は被災地だけではないという認識が必要だと感じました。まちづくりやものづくりには、外力の設定は不可欠です。設定外力以上の外力が作用した場合の対応は、個々人の対応能力に依存していることも感じました。判断力・行動力さらには感性を備えた人間形成が必要であると痛感しました。

さて、学科の近況報告です。２０１１年３月31日、構造およびコンクリート工学分野の大内一先生、地盤工学分野の東田淳先生が、無事、定年退職を迎えられました。大内先生は、２００６年４月に同分野の教授としてご着任以来、学科運営に大変なご尽力賜りました。また、優しい口調で学生に話しかけるとともに、熱心な教育で学生の心を掴んでおられました。この間、２冊の本を出版されるなど、まさに大車輪のご活躍でした。東田先生は、長年にわたり埋設管に関するご研究を遂行され、その厳しいご指導は、皆様もご存じの通りです。ご研究の経過を最終講義「埋設管の鬼と呼ばれて」で拝聴いたしました。多くの方が来聴くださいました。先生の人望の一端を垣間見たように思います。両先生の本学科へのご尽力に、深く感謝するとともに、厚くお礼を申し上げたいと思います。なお、両先生は、特任教授として、今年度も引き続き学科の教育等にご支援を賜っております。

また、本年４月より、大島昭彦先生が地盤工学分野の教授に昇任されました。同分野の教育・研究を一手に担うとともに、学科・学部の運営に、また、産学官の連携を目指す出前研究室「オープン・ラボラトリー」の運営（産学官連携推進委員会委員長を務めておられます）にと、まさに大車輪でご活躍いただいております。

都市基盤工学科の学生は、いよいよ、４年生だけとなりました（少し足踏みをしている学生もいますので、「４年生だけ」という表現は正しくはないのですが…）。現時点では、おかげさまで、それなりに順調に学生の就職先が決まっております。これもひとえに実社会でご活躍のご卒業生の皆様のおかげと感謝申し上げます。学生全員の進路が無事決定するように尽力いたしますので、さらなるご支援の程、宜しくお願いいたします。

次年度は、いよいよ、都市学科の学生を実社会に送り出すことになります。これまで以上に、皆様のご支援が必要と感じております。都市学科の教育は、安全・防災、環境創生、計画・デザインの３本柱で構成されています。これらの教育を担う都市学科の構成を以下に記させていただきます。

●構造及びコンクリート工学分野
准教授　鬼頭 宏明
助教　角掛 久雄

●応用構造工学分野
教授　山口 隆司
講師　松村 政秀

●地盤工学分野
教授　大島 昭彦

●河海工学分野
教授　重松 孝昌

●環境水域工学分野
教授　矢持 進
助教　遠藤 徹

●都市リサイクル工学分野
教授　貫上 佳則
准教授　水谷 聡
講師　鍋島 美奈子

●都市基盤計画分野
教授　日野 泰雄
准教授　内田 敬
講師　吉田 長裕

●環境都市計画分野
准教授　嘉名 光市
助教　佐久間 康富

●地域環境計画分野
准教授　西岡 真稔

教育・研究分野は９分野と豊富ですが、１分野あたりの教員数は１、２名というのが、大学の現状です。このような状況下、教員は、熱い気持ちで教育・研究に邁進しております。

冒頭に記しましたように、東日本大震災から我々は多くのことを学び取り、これを社会に還元しなければなりません。「大阪市立大学大学院工学研究科　東北地方太平洋沖地震報告会」として２０１１年５月19日に、その活動のひとつを始めました。また、大阪市立大学としても、積極的に都市防災研究を始めようとしております。全学横断的な研究となりそうですが、工学研究科とりわけ都市学科（都市基盤工学科、環境都市工学科）、建築学科には、より積極的な関与が求められております。これらの活動を通して、本学科を広くアピールしていきたいと考えております。

さまざまな面で、皆様のご支援とご協力を賜りたいと切に願っております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

東京スカイツリー

(株)日建設計シビル

川満　逸雄
(昭和53年卒)

大学を出てすぐ東京に移動しもう30年が過ぎました。今では、大阪に暮らした時間より東京で暮らした時間が長くなってしまいました。納豆は食べられるようになりましたが、濃い色のうどんはまだ食べられません（ただし、そばは東京の方がおいしいと思います。）

現在、建築設計事務所である日建設計の土木部門である、日建設計シビルに勤めています。あまり知られていないかもしれませんが、日建設計は東京スカイツリー®の設計・工事監理を行っている会社です。東京スカイツリーはすでに有名になっていますが、その足元には新しい街＝「東京スカイツリータウン」が作られつつあります。私たち日建設計シビルは、東京スカイツリー本体には関係していませんが、地下部および周辺整備のお手伝いをしています。

「東京スカイツリー、ただいま○m、すくすくと成長中」電車の吊広告でみたコピーですが、東京の人たちのスカイツリーに対する思いをうまく表現していると思います。われわれが建設している施設で、都民だけでなく国民をこれだけわくわくさせ、希望を与えられるのかと思うのと同時に、元気のない建設業界ですが、まだ、このような力を持っていることを改めて認識させられました。

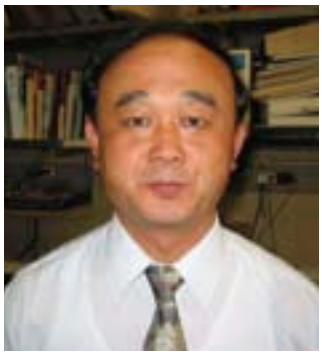
約5分の地震ですべてが変わってしまう。この原稿を書いているときに、東北地方太平洋沖地震が発生しました。マグニチュード9と、私もある程度地震に関係する仕事をしていますが、想像できない規模の地震で、自分の想像力の無さを反省しています。福島の原子力発電所で現在、必死で原子炉の冷却作業が進められています。当初、「なんでこんなことに？」と思っていましたが、今は直接には姿を見ることは出来ませんが、関係者が命を懸けて作業されていることを思うと、同じエンジニア（運命によっては私がその立場にいたかも知れない）として無事に鎮静化することを祈り、声援を送っています。

この文章が、会員の皆様に届く時期には本格的に復興作業が始まっている時と思います。国民に、安全・安心の環境を作るのは我々、土木の使命であると思います。微力ですが、私も尽くしたいと思っています。

最後に、昨年より土木会東京支部の支部長を務めています。毎年11月18日（土木の日）前後に東京支部の総会を東京駅周辺で開催しています。東京近辺に在住の方はぜひ参加ください。こちらまで一報いただくと案内をお送りしますのでよろしくお願いいたします。（kawama@nikken.co.jp）

図　東京スカイツリーの完成予想図

東田淳教授 最終講義の報告



大島　昭彦
（昭和55年卒）

地盤工学研究室の東田淳教授が平成23年3月末日をもって定年退職されることを受けまして、平成23年2月16日に最終講義および懇親会が開催されました。

まず、東田先生の略歴を以下に紹介します。東田先生は1947年（昭和22年）函館のお生まれで、1970年3月に九州工業大学工学部開発土木工学科を卒業され、同年4月大阪市立大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程に入学、1972年3月同課程を修了後、大阪市下水道局に勤務され（7年半）、1979年9月に教育職への任用替えによって大阪市立大学工学部土木工学科助手となり、1988年4月講師、1993年10月助教授を経て、2005年4月に教授に昇任されました。この間に、1987年3月に「剛な埋設管の土圧に関する研究」で大阪市立大学工学博士の学位を取得し、1991年5月から1992年2月まで文部省在外研究員としてアメリカコロラド大学において研究活動に従事されました。本学では32年の長きにわたって教育・研究に携わってこられました。

最終講義は、工学部大講義室（階段教室）にて、『「埋設管の鬼」と呼ばれて―実務・理論と事実を結んだ40年―』という題目で、110名（OB53名、学内者30名、学外者27名）の出席者に対して90分間の講義でした。当日、最終講義用資料として、冊子（論文リストと最終講義PPT配付資料）とCDが配付されました。CDには、1．学術論文63編、2．口頭発表169編、他12編、3．東田博士論文・指導博士論文9編、4．模型実験における相似則、5．連続体モデルの弾性解、6．連続体モデルのバックリング解、7．埋設管の力学挙動と設計法、8．土質力学Ⅱ・同演習テキスト、9．最終講義講演資料PPTのPDFファイルが収納されています。若干の残部がありますので、ご入り用の方はご連絡下さい。

さて、講義の中身は、まさに自他共に「埋設管の鬼」と呼ばれた埋設管研究の集大成を語られるものでした。東田先生は、大阪市下水道局在職中に経験した「下水道コンクリート管埋設施工時のひび割れ発生現象の究明」を研究の出発点とし、実物大の現場実験と実応力状態を小型模型で再現できる遠心模型実験および理論応力・変形解析によって、埋設管と周辺地盤との相互作用、特に管に作用する土圧の解明を進め、土圧に対する管の剛性、埋設施工法、管の不同沈下、地盤面の交通荷重など、埋設管に対する多くの要因の影響を実験と理論面から実証し、埋設管設計法の構築に大きく貢献されました。また、最近問題が顕在化している老朽化した埋設管の更生問題にも取り組み、解決につながる大きな成果を挙げられています。さらに、埋設管以外の研究でも、連続地中壁施工時の泥水掘削溝の安定機構解明、高盛土を支える井桁擁壁の挙動なども行っており、幅広い地盤工学問題を研究対象として顕著な研究成果をあげられています。これら一連の研究の中で8名に対する博士論文を指導されました。また、埋設管に関する一連の業績に対して、平成14年度地盤工学会研究業績賞、平成17年度地盤工学会関西支部社会貢献賞を受賞されています。講義の最後では、長年言われてきた「抗土圧構造物に対するバネモデルによる設計法」を撲滅するためにこれからも頑張ると締めくくられました。

東田先生は平成23年3月をもって定年退職されましたが、4月からは特任教授（1年間の再雇用制度）として、学部・大学院の授業および知識と技術の伝承、対外広報活動などの業務を行っていただいています。むろん埋設管の研究も続けられています。

イベント開催報告 第21回市土会 ゴルフコンペ

第21回の市土会ゴルフコンペが、平成22年5月28日（金）、大宝塚ゴルフクラブで開催されました。

当日は、毎月数回のラウンドをこなすツワモノから市土会でしかゴルフをしていない者まで、20名が参加しました。お互いの近況報告、旧友の情報、仕事や母校の状況等に話を弾ませてプレイを楽しみました。

熱戦の結果、石丸和宏氏（H3卒）がG95・N71・0で優勝されました。初めての平成卒業生の優勝となり、今後の平成卒業生の参加と活躍に期待できる結果となりました。ベスグロ賞は水谷昌弘氏（S45卒）がG84で獲得されました。

また懇親会において、会長の交代が報告されました。新会長に徳本行信氏（S45卒）が就任されました。今後の市土会を盛り立ててもらえることと期待します。これまで10年間会長として尽力されました芦田前会長お疲れ様でした。

次回は、今年（平成23年）の秋を予定しています。

次回も多くの方のご参加お待ちしています。参加に興味のある方は事務局又は幹事までご連絡下さい。

幹事：岡田（S60）・吉田（S62）

イベント開催報告 第25回 東京支部総会

恒例の大阪市立大学土木会東京支部総会が平成22年11月19日（金）に東京日本橋の“サリュコパン”で開催されました。東京支部総会は、平成3年以来、毎年、原則として、土木の日（11月18日）に開催しておりますが、平成22年度は、19日（金）に開催いたしました。

大学から山口教授に御臨席いただき、18名の出席がありました。川満逸雄東京支部長（S53卒）の挨拶で始まり、山口教授から大学をとりまく近況をお話しいただいた後、木和田様（S52卒）の乾杯で懇親や情報交換などが始まりました。

また、土木会本部から倉田会長と芝野事務局長においでいただき、土木会の状況等についてご報告していただきました。

そして、中村龍由幹事（S60卒）からの会計報告などの後、柄川様（S51卒）の手締めで閉会となりました。

なお、参加者が年々減少傾向にありますが、東京支部総会開催の工夫等を行い、より有意義な東京支部総会を開催し、参加者の増員を図りたいと考えますので、皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思います。

なお、平成23年は、11月18日（金）に開催の予定です。関東地区にご在住の方、また、出張等で東京においでの方は、ぜひご参加ください。なお、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

大阪市立大学土木会東京支部
幹事　今井一彦（S54卒）
E-mail:kz-imai@ctie.co.jp

平成22年度土木会総会報告

平成二十二年度土木会評議員会、総会、懇親会を、平成二十二年七月七日（水）大阪市北区の弥生会館において開催しました。出席者は二十一年度から一六名増えて六五名でした。

総会前に開いた評議員会では、平成二十一年度の事業報告、会計報告及び会計監査報告がされ、また平成二十二年度の事業計画及び予算案、役員選出を提案し、それぞれ承認・可決いたしました。

平成二十二年度の主な内容は、①学生支援活動（新入生歓迎会、シビルの日など）②会員交流活動（第二十一回市土会ゴルフコンペ、第二十五回東京支部総会など）③広報活動（土木会通信第四号の発行）④予算として、年間2，830，000円を組みました。

役員改選として、副会長は住吉正信氏（S46卒、鹿島建設）から川本　清氏（S47卒、阪神高速道路）に、同じく副会長に黒山泰弘氏（S50卒、大阪市）から大島豊平氏（S53卒、鹿島建設）が、幹事には吉田長裕氏（H7卒、大阪市立大学大学院）から松村政秀氏（H9卒、大阪市立大学大学院）が就任しました。

また、評議員としては、S23年卒は根岸　總氏、S47年卒は西野　繁氏、S53年卒は大梅雅之氏、H22年卒は丸吉克典氏がそれぞれ選ばれました。

会員数は平成二十二年四月一日現在で、正会員一九〇九名、学生会員一〇三名、特別会員一三一名の合計二一四三名です。総会への出席者は六五名で会員の約3.0％に過ぎません。多くの会員の方々の参加をお願い致します。

～角野メモリアル～ 国際会議の開催

平成23年3月7日～9日に「第3回大阪市立大学複合先端研究機構国際会議」が大阪市立大学学術情報総合センター10階会議室にて「～角野メモリアル～」の副題が付けられて開催されました。複合先端研究機構は、平成19年10月に大阪市立大学の理系3研究科（理学、工学、生活科学）を横断する研究者で設立された理系共同研究の新機構で、“都市圏におけるエネルギー・水・生態系の健全な循環・活用”に関する最先端の研究を行っています。工学研究科都市系専攻からは矢持、貫上、重松、鍋島先生および大島が参加しています。この研究機構は故角野昇八先生（当時副学長）が大阪市立大学の将来に対する切なる思いから設立されたものであり、今回の会議ではその功績をたたえ、会議3日目に以下の記念セレモニーが開催されました。

Wednesday, 9th March, 2011 KAKUNO Memorial Ceremony
～角野メモリアル～

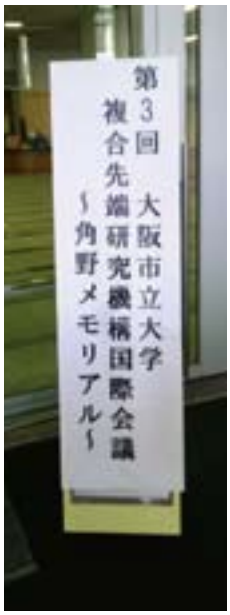
10：00～10：10　セレモニー開催の辞
「角野メモリアルセレモニー開催意義について」
複合先端研究機構 機構長　木下　勇

10：10～10：40　角野昇八先生を偲んで
元・複合先端研究機構 機構長／
大学院理学研究科・教授　畑　徹

10：40～11：10　角野先生を偲んで「角野さんの思い出」
大阪市立大学名誉教授　小田一紀

11：10～11：40　角野先生を偲んで「角野先生のご研究の歩み」
大阪市立大学大学院工学研究科・教授　重松孝昌

11：40～11：50　閉会の辞
複合先端研究機構　機構長　木下　勇



畑、小田、重松先生から角野先生を偲んで、種々の思い出話、研究内容が紹介され、あっという間に時間が過ぎました。当日には角野先生に関する資料をまとめた冊子が回覧されました。現在も回覧することが可能ですので、希望される方は重松先生までお問い合わせ下さい。また、現在も以下のＵＲＬにて角野先生のＨＰを見ることができます。

http://mhsv.mh.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/~hachi/

大島昭彦（昭和55年卒）

連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔　長いようで過ぎてみると短い　外面の変化は
隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま　その積み重ねで気がつけば〇年
そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます
毎年区切りの年はあります　次はあなたの学年ですよ

地震の奴め

加藤　正之（昭和35年卒）

早いもので、汚いが故に愛着の強かった扇町の大学校舎を出てから50年が過ぎた。時々送って頂く土木会誌により、同窓の皆さんの活躍ぶりを感じ取り御同慶の至りとあれこれ想像している。ただ最近は公共投資は無駄との風潮が強くなり、国内ではかつての土木分野の勢いが衰え、特に現役の諸君が使命感を持ち続けられることに危惧している。かく言う私は、もともと橋梁会社に勤めていたが、その後いろいろあって現在は静岡に住み地元の測量設計会社の顧問を勤めている。

さて、3月11日に東北から関東の太平洋岸一帯が想像を絶する地震に見舞われた。地震動、津波と原発の異常による未曽有の災害だ。同窓の中にもこの地方出身か近親者が当地に居る人もいる事と思う。被災地の方達ともどもにこころからのお見舞いを申し上げたい。

今のところまだ我々土木関係者からのコメントは聞こえてこない。いずれ土木学会等の調査が始まり、具体的な分析結果また対策などを目にする事になる事と思うが、この地震は我々土木を生業（なりわい）とする者に対し何を教えてくれるのだろうか。

例えば、宮古市の田老漁港には巨大防潮堤が築造され、又高台への避難路も整備されソフト面でも充実させていて十分な防災地域としてこれまでは十分効果を発揮してきたという。そこがあの惨状だ。特に橋梁を専門として歩んできた私にとって、橋の崩落が大きいもので約50橋もあったと言うのは甚だショックで、恐らく津波の奴めがよいしょと持ち上げそこらに放り投げたのに違いない。海に近い地域での橋梁には津波の横力、揚圧力の見直しを考慮する事が必須になろう。

さて私が今住んでいる静岡は住み心地、温暖な天候、富士山、伊豆、浜名湖と観光地に恵まれており、更に新鮮な魚、お茶など申し分無い。ただ東海地震を除けば。地震さえ来なければまさに天国。と言うのは言い過ぎか。

しかし当地に住んでいる人たちは、今日来る、明日来ると言われて30年。はたしていつの事になるのかねと案外呑気。もっとも今度の地震で皆一様に緊張感を持った筈。特に当地は中部電力の管轄で、御前崎の傍の浜岡に原子力発電所を稼働させている。福島沿岸と全く同一条件だ。

一昨年、平成21年8月11日に駿河湾地震が焼津沖で起きた。マグニチュード6.5静岡市は震度5強、津波は62㎝が観測された。東海地震はユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界のずれに起因するとされているが、一昨年のものはフィリピン海プレート内の地震、同一スラブ内の地盤崩壊によると分析されており東海地震とは異なるものと解説されている。つまりはまだガス抜きが終わっていないと言う事。どうしようもない。ただただ減災の為の準備をするのみ。さらにこの静岡市は東海地震の震源域の東側端部、最近は東南海地震と南海地震が連動する恐れがあるとの事、一体日本列島どうなってしまうのだろう。

私は島根県の田舎の三男坊、何をしてどこで暮らしても良いと勝手に考え、敗戦で無茶苦茶になってしまった世の中を見て土木の世界に飛び込んだ。新幹線、オリンピック、大阪万博と建設ラッシュの中にいた頃を思い出して、良い時代をただがむしゃらに生きて来たなとの実感、それに較べ今の若い諸君とりわけ学生諸君は私達とは違う視点での生き甲斐、使命感を見いだす必要があるのではないか。良い友人にも恵まれ現在に至ってもうすぐ76才。世間では後期高齢者と言うのだそうだ。後期とはもはや後が無いと言う事。55年間タバコを吸い続け又いろいろと世間様から与えて頂いたストレスの結果、不整脈、心房細動など心疾患を抱える事になり医者通い、又近年特に物忘れ激しくボケに向かって突っ走っている自分に我ながらあきれている。

近況：平成23年２月 伊豆にて

昔：30年前

「有馬にて、40年会」

吉田　邦晃（昭和45年卒）

学園紛争の真只中の杉本町の学び舎を巣立って早40年が経ち、久々に皆で集まろうという話が、昨年の2月、同期で亡くなった故真嶋光保先生の13回忌の食事会で持ち上がった。一同15名異議なしの賛成。その場で色々な企画案が出たが、最終的にはゴルフと宿泊のセットで、皆が集まりやすい近場の有馬温泉でこの秋に遣ろうという事になった。

昭和41年入学又は45年卒業の39名に案内状を送付したが、昼のゴルフは6名、夜の宴会宿泊は14名の参加となった。

日時は、平成22年11月19、20日の金・土曜。ゴルフは加東市のグランドオークゴルフクラブで絶好の晴天の下で日頃の腕前を披露し、楽しい一日を過ごした。競技はダブルペリア方式で行い、優勝とブービーの二人で等分に配分した。

ゴルフの後「有馬ビューホテル」で宴会宿泊組の8名と合流。よく顔を合わす友、卒業以来始めての友、皆昔に帰って和気藹々と「太閤の湯」に浸かり40年間の垢を落とした。風呂の後は宴会である。宴会に入る前に、不幸にして皆より先に逝った8名（真嶋氏・西川氏・松代氏・川崎氏・岸本氏・酒井氏・斉藤氏・小林氏）のご冥福を1分間の黙祷で祈り、献杯ののち宴が始まった。

酔いが回ってから皆順に卒業後の歩んだ道と今後歩む道を話し合い、会が盛り上がった。卒業をしてから各々土木の中で色々な立場の仕事を選び、40年間皆夢中で働き社会資本の整備に貢献し、漸く休める時が来始めた。

宴会の後はカラオケの披露、各自自慢の持ち歌を順次歌い、拍手喝采のうちに第二幕は閉幕。部屋に戻っての第三幕の開幕、酔いも大分回り、学生時代の秘話の披露で大いに盛り上がった。

翌朝は、2年後の伊勢鳥羽方面の「42年会」での再会を約して三々五々帰宅の途についた。

卒業後の10年会は堺の羽衣、15年会は名張の青蓮寺湖、20年会は橋本の紀ノ川、30年会は吉野の花吉野Gと会を重ねて今回の40年会を迎えたが、今後は皆ある程度時間に余裕もできたので隔年毎に集まるようにし、皆が集い、話すことにより新たな刺激を貰い、元気で健康な今後の人生を歩んでゆきたいと考えている。

毎回この様な集りにはメンバーが固定してしまうが、今回は東京から中山隆氏（国土交通省）が初めて参加された。卒業後消息を絶たれている人も次回からは多数参加され末永くこの集いが続くようにと念じている。

この原稿の締切り前の3月11日に東日本大震災が発生し、未曾有の地震津波災害となった。被害の詳細が報道されるにつれ大津波、放射能の恐ろしさを改めて知り、先達の土木技術者が営々として築き上げてきた防潮堤等の社会資本を一瞬のうちに破壊しまう自然の力に驚愕した。また、運悪く一瞬の内に家族と離れて未だに行方不明の方々が多数発生し、人の運命、人生の儚さをつくづくと感じる今日この頃である。復興復旧まで遠い道のりであるが阪神大震災を経験した我々が、今度はそのお返しとして各自できる限りのことで何かをしなければならないと思っている。

今回は下記の友の参加を頂きました。写真下段左より以下敬称略、中村、松下、水谷、吉田、松村、篠木（前）、東（後）、勢川、上段左より中山、徳本、岸田、梅田、北浦、青木以上14名。次回はより多くの友の参加を期待しています。

卒業30周年同窓会 開催報告

谷　直樹（昭和55年卒）

光陰矢のごとし。

早いもので、昭和55年3月に大学を卒業して30年が経ちました。

私ども昭和五十一年度工学部土木工学科入学生は「五十一会（いそいちかい）」を作り、毎年同窓会を開催してきました。一昨年末の同窓会の場で卒業30年の節目の年を迎え、我々も諸先輩にならい五十一会として同窓会を開くことにしました。

社会に出てそれぞれの道に分かれて30年の月日を経ていることから、今回の同窓会のコンセプトは「もう一度、30年前の原点に戻ろう」に決めました。これをもとに、同窓会は大学内施設を中心に3部構成としました。

Stage1は同期の大島先生を案内役とした学内（教養学舎と学術情報総合センター）見学会

Stage2は学内のレストランウィステリアを借り切っての同窓会

Stage3は市内の宿泊施設を利用した飲み直し会

としました。同窓会は9月18日に開くことにしました。

同窓会のメインイベントはみんなで30年前に戻るため、当時の写真を整理し・プロジェクターで映し「あの時はああだった、こうだった」と言い合う場にしようと企画し、事前準備として学生時代の写真を集めることにしました。

私どもの同期には土井君というカメラ小僧がいまして、当時からコンパクトカメラ（もちろんフィルムカメラ）をポケットに入れ、ことあるごとに皆のスナップ写真を撮っていてくれました。当初はそれを利用させてもらうことにしましたが、16年前の阪神大震災でネガがなくなったとの連絡が入りました。

そこで、みんなで手分けして当時の写真を集めることにしましたが、これがまた大変！。30年という歳月が大きく我々に襲いかかってきました。

みんな実家を出て自分の家に引っ越した時に、これらの写真がどこにいったかわからない人が多かったのです。出欠をとる際、一人一人に写真の有無を確認し全部で300枚の思い出を集めることができました。

いよいよ、9月18日、所定の時刻に懐かしい顔が一人二人と集まりはじめました。久しぶりに会うと髪の毛や体型の変化に驚かされる人もいましたが、14名が集まりStage1の始まりです。

Stage1の教養構内見学では最初に目に飛び込んできたのが大きな新しい校舎でした。私達が授業を受けていた校舎がなくなり、立派な新校舎となっていました。もちろん30年前の記憶ですのでぼやけている記憶ですが私達が授業を受けていた古い校舎の面影がどこにもないことに僅かな寂しさを覚えました。もっとも教養構内を回る内に当時の外観を残した生協食堂や当時の汚いイメージのままの部室を見たときは学生時代に戻ったような感覚をもちほっとしました。

最後に最新設備を備えた情報センターを案内されたときはその最新の設備に驚くとともに、その設備を使いこなしている現在の学生諸君を見たときは新しい知識を求めていない自分を少し戒めてしまいました。

Stage2の会場は大学構内のレストランウィステリアで、遅れて参加した方も含め19名が参加し、園田先生はじめ当時の各研究室代表の恩師に来ていただき開会することができました。来ていただいた先生方から御挨拶を頂戴しました。我々も50才を過ぎて少々くたびれた同級生もいる中で、先生方は皆さんお元気な方ばかりでした。地域の方々にＦＥＭを御教授されていたり（園田先生）、若い奥様をめとられたり（？先生）と退官されても、今も何か行動されている由、若さを保つ秘訣はこういうことなのかなとまたまた講義していただいたような気がしました。

時間も過ぎいよいよ30年前の自分たちに会う時がきました。集めた写真は大島先生にパワーポイントでおもしろおかしく編集していただき、おおいに盛り上がりました。我々幹事はパソコンが苦手で（50過ぎたおっさんだからしようがない！）写真を集めるだけでしたが、お忙しい中、大島先生には会の直前まで編集していただきました。ごくろうさまでした。

Stage3では部屋にお酒を持ち込みワイワイやりましたが、何を話したかよく覚えていません。再度前述の写真をみんなで見わいわいがやがや統制のつかないまま時間が過ぎて行きました。ただ、違うのはみんな昔のように夜が明けるまで読み続ける・語り続けることができなくなったことです。大きい声でさんざん騒いだ後みんな静かに床につきました。

こうして卒業30周年の同窓会を終えることができました。日常忘れていた30年前の自分が送っていた学生時代を振り返り、怖いもの知らずではあったけれどそれが青年の心意気であったのかなと思います。それもこれも恩師が温かく我々を見守りご指導いただいたおかげであると改めて感謝申し上げます。30年たっても変わらず集える仲間がいるのは自分の大変貴重な財産です。

若い皆さん（特に学生の方々）、同級生と共有する思い出をたくさん作り、それを残すようにしてください。きっと、将来みんなでその思い出を懐かしく思い返すことができると思います。

最後にこの報告を作成しているおり、東日本大震災が発生し大きな被害を引き起こしました。我々の同級生には被災された方はおられなかったようですが、なくなられた多くの方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に対し自分は何ができるかを考えて行動したいと考えています。

加えてテレビでみる被害の惨状を見るにつけ、都市の基盤整備の重要性を痛感し、最近、何かにつけ悪者扱いされつつある建設部門・公共工事の必要性を感じております。

今後も建設部門は企画・設計・施工・メンテナンスに至るまで全て必要となるものと考えられます。

がんばろう　日本!!

『土木屋』と私

平田　大（平成2年卒）

私は１９８６年に土木工学科に入学しました。思えば物心がついたころから、同じく市大土木の出身で『橋梁屋』である父（昭和35年卒）に、『これはお父さんが作った橋やぞ！』とさんざん刷り込まれてきた私にとって、土木工学を専攻することは必然であったのかもしれません。反抗期には父親に反発しながらも、自分の仕事が形として残ることに尊敬と羨望の思いがあったことも事実です。ただ入学後は敷かれたレールを進むような気がして、４回生になる頃には『計画研』を選択し、大学院進学の後、阪急電鉄㈱に入社しました。以来、保線の総括部門、コンサルタント会社への出向、連立事業や駅のバリアフリー化工事の担当セクション、保線現業部門を経て、この4月より土木・保線部門の庶務・労務を担っています。いろいろとバリエーション豊富なキャリアを積めるのも『土木屋』ならではのことと思っています。着かず離れずの絶妙の距離感でいた父も現在はすでにリタイアし、趣味の詩吟と油絵を楽しむ悠々自適な生活を送っていますが、現在も諸先輩方より「親父は元気か？」と声をかけていただき、そこからコミュニケーションが広がることも多く、いまでも大変感謝しています。

私も3兄弟の親となり、長男が小学3年生になった今、そろそろ父親の仕事につ

いて理解ができる年齢になってきました。せいぜい自分の仕事を自慢して、次世代の『土木屋』に育てたいと思う今日この頃です。

今回、寄稿を依頼され、なにを書こうかと思案していた3月11日、東日本大震災は起こりました。前日からの風邪をこじらせ、高熱に悩まされていた私は、当日未明の仕事上のトラブルの事後処理に朝一番から出社し、どうにか上司への報告を終えた後に容態が悪化したため早退、自宅のベッドに倒れこんだ矢先のことでした。突然部屋がぐるぐると回りだし、だいぶ重症だなと思った途端に携帯電話が鳴り、東北地方での大地震発生とそれが関西まで伝わってきたと知りました。

未曾有の規模で発生した地震は大津波を引き起こし、甚大な被害と多くの犠牲者をもたらす極めて痛ましい災害となりました。お亡くなりになられた方々に対し、深く哀悼の意を表するとともに、被災地が一日も早く安心して暮らすことができる環境になることを願ってやみません。また福島第一原子力発電所の事態収束が不透明な状況で、市大土木会会員の中にも不安を抱えながら復興作業に従事されている方も多数いらっしゃると思います。連日のご努力に敬意と感謝の気持ちをお伝えしつつ、いま私自身なにができるのかを日々模索したいと考えています。

次世代の土木屋と

事務局よりお知らせ

事務局長　芝野　弘之

会員名簿について

個人情報保護などのため、平成17年以降土木会名簿の発行をとりやめてから、自宅住所の不明者が年々増えており、総会案内や土木会通信の返却されてくる件数が年々多くなっております。正会員約２０００名のうち、４００名近くの方の自宅住所が不明のままです。

そこで、事務局としましては今年から、卒業年次別、職場別などに調査を依頼し、会員名簿の整備を図っているところです。

まだ回答のないのもありますが、１００名近くの方の自宅住所が更新できました。今後、さらに名簿の整備を行っていきたいと考えております。

この調査は、あくまで総会案内や土木会通信の送付など土木会活動に限定するもので個人情報保護の観点を充分ふまえ管理運用をしてまいります。

自宅住所や職場等の変更がございましたら、事務局まで、葉書もしくはメール、ファックスにてご連絡ください。

また、土木会のホームページからも変更が可能です。今回は「土木会ホームページおよびそのアクセス方法のご案内」を同封しました。

何とぞ会員皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ホームページ

土木会通信1号から4号をホームページに掲載しました。

会費納入のお願い

年々会費が減ってきております。特に若い方々の納入が少ないように思われます。年会費は2，000円ですが、積もり積もると多額な金額になってしまいますので、お早めの納入をお願いします。また、多額になった場合、分割の納入でも結構です。（振込用紙の納入金額欄は空白にしています）

定年退職を迎えた方など、一括納入により終身会員とされることをお勧めします。終身会費は卒業後35年以上で会費滞納がない方は20，000円です。

第26回大阪市立大学土木会東京支部総会開催のお知らせ

平成23年度の第26回東京支部総会は、11月18日（金）に開催予定です。関東地区にご在住の方、また、出張等で東京においでの方は、ぜひご参加ください。なお、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

幹事：今井一彦（昭和54年卒）
㈱建設技術研究所　東京本社
E-mail：kz-imai@ctie.co.jp

平成23年度土木会総会・懇親会のお知らせ

平成23年度の土木会総会・評議員会・懇親会を次の要領にて開催致します。会員各位におかれましてはご多忙とは存じますが、土木会発展と活性化のため多数の方々のご参加をお願い致します。

（1）日　時　　平成23年７月15日（金）
評議員会　　18：00～18：30
総　　会　　18：30～19：00
懇 親 会　　19：00～21：00
（2）場　所　　大阪弥生会館　2階
評議員会・総会は「比叡の間」
懇親会は「三笠の間」
TEL：06-6373-1841　大阪市北区芝田2-4-53
JR大阪駅、阪急・地下鉄梅田駅から徒歩５分
（3）会　費　　5,000円